

基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、 多様な人や組織の参加と協働ですすめます

重点施策【3】 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○日常生活圏域コーディネーターによる支援【取組1) 2) 3)】

- ・令和2年4月から、すべての社協区事務所に日常生活圏域コーディネーターを配置
- ・各地域において取り組んでおられる福祉活動や今後取り組みたいという活動を支援



日常生活圏域コーディネーターによる地域活動への訪問

※日常生活圏域コーディネーターによる活動支援の推移

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援に関するプロジェクト数	286件	275件	214件	254件 (※)

※令和5年12月末時点

基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、 多様な人や組織の参加と協働ですすめます



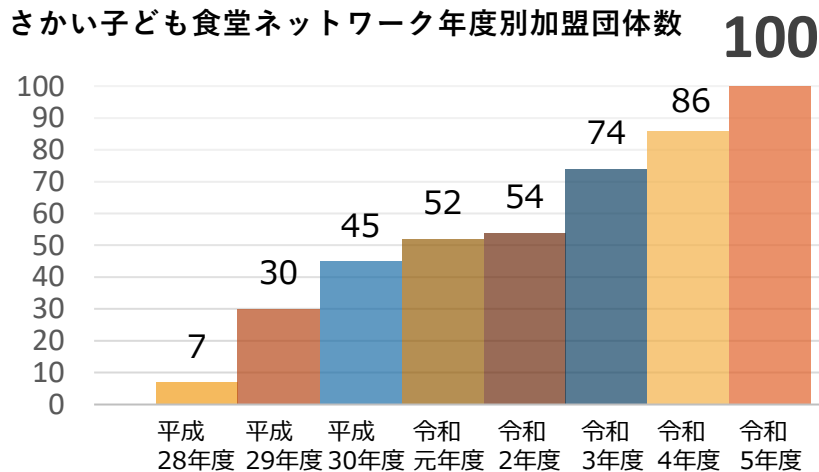
重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○さかい子ども食堂ネットワーク【取組1) 取組2) 取組3)】

市内の子ども食堂の輪を広げていくことを目的として、子ども食堂を実施する団体間の交流や情報共有、人材や食材のマッチングなどの支援を実施。

昨今のコロナ禍においても団体数は年々増加している。また、企業や団体、個人からの応援が多数寄せられており、多様な主体との協働や多様な人の参加が促進されている。



さかい子ども食堂円卓会議

(年3回)

子ども食堂の実践者や応援している企業などが集まってつながる場

〈令和5年度〉

第19回 7月27日 約70名

第20回 12月7日 約70名

第21回 3月実施予定

令和4年度 寄附実績

寄附等のマッチング

マッチング 新規相談件数：137件

常設型フードドライブ

290件 5,448個 約4.1t

- ・さかい子ども食堂ネットワーク加盟 100団体(令和5年12月末時点)
- ・子ども食堂の小学校区別充足率67.3%
(子ども食堂が1つでもある校区 62/92小学校区)



第20回子ども食堂円卓会議 2

**基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、
多様な人や組織の参加と協働ですすめます**

重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○日常生活圏域コーディネーターによる支援【取組1)②③ 2)① 3)②】

大学の研究をいかしたフレイル予防プログラムの提供
～校区福祉委員会活動の活性化と活動創出～ (南第4圏域※)

南第4圏域において、研究成果を大学の地元地域に還元したい大学教授と、毎月のプログラムのマンネリ化が課題となっていた校区福祉委員会とを日常生活圏域コーディネーターがマッチング。

同圏域内4か所でフレイル予防の講座や体力測定、自宅でも取り組める簡易的なトレーニングなどを実施し、合計約80名の参加があった。

また、参加した校区のうち1つの校区から継続してフレイル予防に取り組みたいとの希望があった。フレイル予防として「インターバルウォーク」に取り組む活動の創出に向けた体験会を行い、令和6年度から定期開催を予定している。



大学教授によるフレイル予防講座

※南第4圏域…三原台校区、泉北高倉校区、はるみ校区、槇塚台校区エリア

**基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、
多様な人や組織の参加と協働ですすめます**

重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○日常生活圏域コーディネーターによる支援【取組1)② 2)① 3)①②】

北区まちかどつながり相談室－企業や地域と連携したアウトリーチ相談会－(北区域)

北区では、地域のイベントや企業と連携した、アウトリーチ型の相談会「北区まちかどつながり相談室」を実施している。

地域包括支援センターや薬剤師会といった専門職、民生委員会や自治会などの地縁組織などと協力し、スーパー、商業施設、信用組合などに出向き情報発信と相談会を実施している。

令和5年度は、北区に2か所あるイオンの店舗と協働を行い、定例開催に加え、イベントを実施した。

特に情報発信に力を入れており、相談機関や地域活動の情報発信、健康活動記録アプリの啓発、警察による詐欺被害防止啓発などを行った。その他、血糖値測定、噛む力チェック、脳トレ、認知症チェックなども行った。

この取組は多世代へ情報発信する機会となっている。



商業施設でのまちかどつながり相談室

基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、
多様な人や組織の参加と協働ですすめます

重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○日常生活圏域コーディネーターによる支援【取組1)② 2)① 3)②】

手入れが必要な農地・畑作業の応援隊プロジェクト(東区域)

東区では、引きこもりや疾患等様々な理由で社会関係のつながりが少ない方が参加できる場づくりと、農地・畑作業を行っている住民で高齢等を理由に農地の維持が困難になってきている方への支援をマッチングし、本プロジェクトを実施している。

活動に理解のある農家さんの協力によりモデル的に活動を実施。地域包括支援センターからの相談で若年性認知症の方の参加を支援するなどの事例を積み上げている。

今後、協力農家さんを増やしつつ、維持困難な農地へもアプローチしていく。



若年性認知症当事者が農作業に参加

基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、
多様な人や組織の参加と協働ですすめます

重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○日常生活圏域コーディネーターによる支援【取組1) 2)①】

誰もが気楽に参加できる場 楽ボラの取組（西区域）

西区では、ボランティアに関心がある人に加え、ひきこもりや疾患など様々な事情で社会とのつながりが希薄な人など、若者から高齢者まで誰もが気楽に参加できる「楽ボラ～ハンドクラフト～」 「楽ボラ～イブニング～」を定期的開催。ハンドクラフトでは、作品を作りながら交流し、作品は社会貢献に活用している。イブニングでは、公共施設の清掃と参加者同士の交流を行っている。

効果

- ・様々な人の社会参加の場となっている。
- ・参加者が講師になることもあり、受け手と支え手の関係を越える場となっている。



楽ボラ ハンドクラフト



楽ボラ イブニング 公共施設の清掃（左）と交流会（右）

**基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、
多様な人や組織の参加と協働ですすめます**



重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

—今後の課題・取組—

地域活動の担い手が固定化する中で、地域福祉活動をどのように進めていくかが大きな課題となっている。

- ◎ **重層的支援体制整備事業に向けた「居場所」のさらなる確保【取組1)②】**
 - ・日常生活圏域コーディネーターによる地域活動の活性化と創出の継続
 - ・重層的支援体制整備事業の実施に向けて、課題発見から支援につながる「居場所」、課題を抱える人を受け止める「居場所」の確保
 - ・「居場所」同士の有機的連携

- ◎ **多様な主体との連携と多様な人の参加の促進【取組1)③、取組2)②～③、取組3)②】**
 - ・企業やNPO、職能団体などとの協働による活動の創出
 - ・福祉以外の文化芸術、まちづくり、スポーツなど多様な分野との協働による「居場所」の創出

- ◎ **効果的な情報提供【取組1)③】**

- ◎ **有償やビジネスの視点を含めた活動【取組3)③】**